

編集・発行 芸予地震被災資料救出ネットワーク愛媛（愛媛資料ネット）
〒790-8577 松山市文京町3 愛媛大学法文学部寺内研究室気付
TEL 089-927-9317 Eメール terauchi@LL.ehime-u.ac.jp 郵便振替 01690-8-5497

最古級の遍路案内書みつかる

愛媛資料ネットでは旧中山町で見つかった「玉井家文書」の整理を継続して行っていますが、その過程で元禄元年（1688）に発行された国内でも最古級の遍路案内書がみつかりました。発見されたのは『奉納四国中辺路之日記』。やや厚手の楮紙を七枚継ぎ、版木を使って印刷されていますが、版木の摩耗が相当進んでいたため、刷りはかなりひどく、判読不可能な文字もあります。寸法は、縦14・2センチ、横242センチで、遍路が折りたたんで携帯できるサイズになっています。

冒頭部には弘法大師とおぼしき旅姿の僧侶が描かれ、「(梵字) 奉納四国中辺路之日記」とあり、次いで阿波国霊山寺から順に八十八の札所が並べられています。各札所ごとに、上半分に本尊の名、本尊の絵、次の札所までの距離、下半分に札所の名前と御詠歌がひらがなまじり文で書かれています。末尾には「合八十八ヶ所、道四百八十八里、川四百八十八川、坂四百八十八坂」、「空□印」、そして「元禄元年土州一宮 長吉飛驒守藤原」とあります。この「土州一宮」は高知県の三〇番札所一宮（現在の善楽寺に相当）、「長吉飛驒守藤原」は一宮の神主で、この遍路案内書の発行人であったと思われます。

貞享四年（1687）に真念が国内最古の遍路案内書『四国辺路道指南（しこくへんろみちしるべ）』を出し、ベストセラーになったことは有名ですが、この史料はその翌年に出されており、四国で発行された案内書としては最古のものとなります。

この『奉納四国中辺路之日記』の特徴の第一は、六十番札所横峰寺から六四番札所里前神寺までの順番が真念の『四国辺路道指南』と異なっていることです。真念の『四国辺路道指南』では、六〇番横峰寺、六一番香園寺、六二番一之宮、六三番吉祥寺、六四番里前神寺、となっていますが、この『奉納四国中辺路之日記』では、一之宮、こうおん寺、よこみね寺、石つち山、吉じやう寺、

の順になっています。つまり、順番が違うだけでなく、後者には里前神寺が出てこないのです。これは、当時横峰寺と里前神寺が石槌権現の別当職を巡って激しく争っており、そうしたことがこの札所の順と札所名の記述にもあらわれているようです。

特徴の第二は、各寺ごとに本尊をたたえる御詠歌が書かれていることです。現在の札所での参拝形態は般若心経などの読経が中心ですが、こうしたスタイルが成立するのは明治以降であり、江戸時代は御詠歌の奉納が重視されていました。この『奉納四国中辺路之日記』はそうした明治以前の参拝形態にかなうものといえます。

ところで、承応二年（一六五三）の澄禅の『四国辺路日記』にはこの『奉納四国中辺路之日記』と関連すると思われる記述が四カ所あります。

- ①海部、太師堂の記事中。「爰ニ辺路札所ノ日記ノ板有リ、各買之也」
- ②出釈迦山の項。「日記ニハ善通寺ヨリ 町、善通寺ヨリ又甲山寺ニ 町ト有リ」（空白の部分は原本でも空白）
- ③崇徳天皇の項。「世間流布ノ日記ニハ如此ナレトモ、大師御定ノ札所ハ彼金山ノ薬師也」
- ④日記の末尾。「世間流布ノ日記 札所八十八ヶ所、道四百八十八里、河四百八十八瀬、坂四百八十八坂」

以上ですが、最後の④はこの『奉納四国中辺路之日記』と数字がまったく一致しています。『奉納四国中辺路之日記』の制作は元禄元年（一六八八）ですが、おそらくこれに内容面では非常に良く似た「辺路札所ノ日記」が先行して出されており、またそれは「世間流布ノ日記」といわれているように、かなり広く普及していたようです。

ちなみに、澄禅はこの『四国中辺路之日記』と同じ順で参拝しているようです。澄禅は伊予の一ノ宮に参ったあと、香園寺に参り、次いで横峰寺に参拝しました。横峰寺参拝のあと、

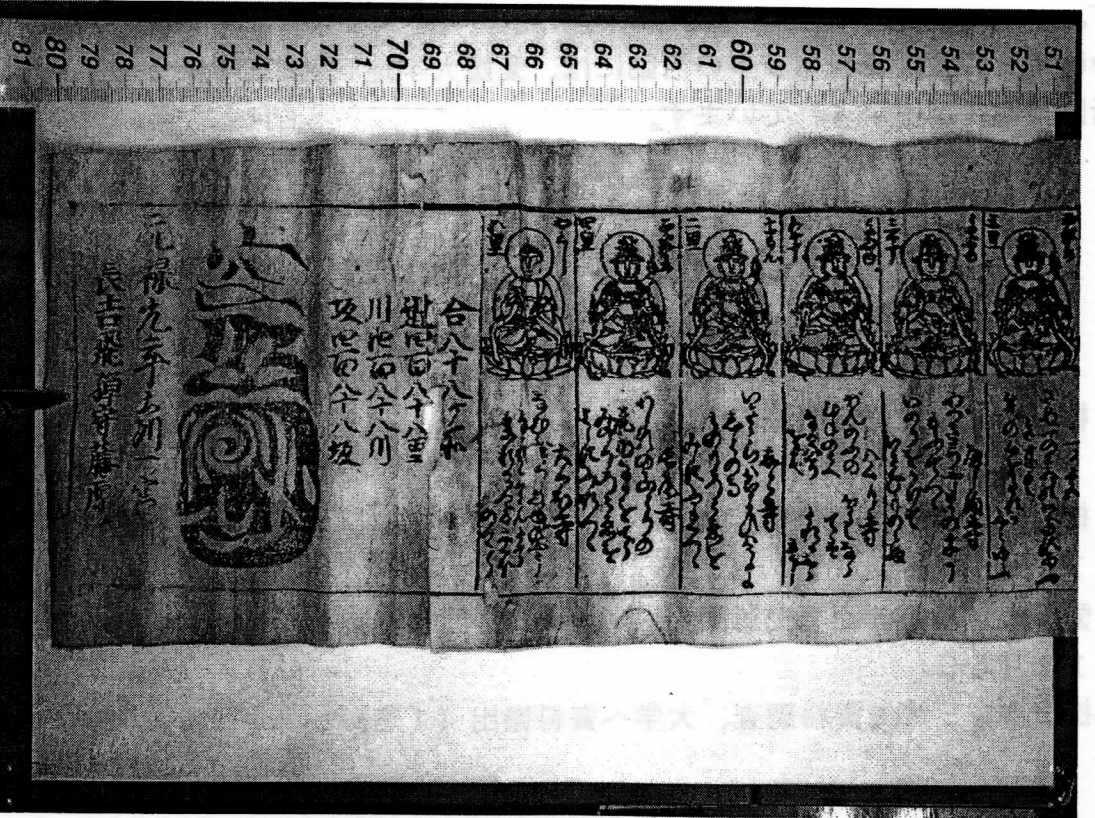
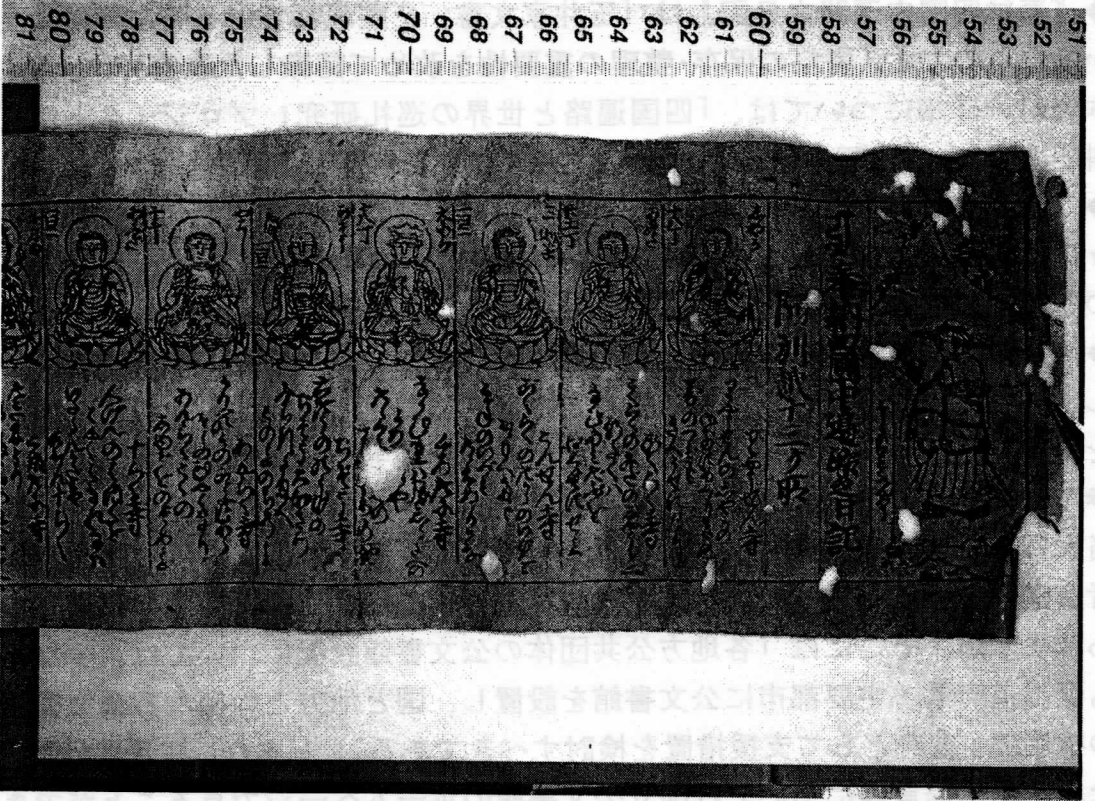
峯ニ上ル事五町、爰ニ鉄ノ鳥居在リ、爰ニテ石槌山ヲ拝シテ札ヲ納メテ読経念誦ス。

と記しています。

また、横峰寺に続く札所として石槌山を以下のように記しています。

石槌山 太権現、本地阿弥陀如来、嶽迄ハ十二里也、爾レトモ六月一日ニ山上ス、余時ハ山上不成也、右横峰ニ札ヲ納ルナリ。

横峰で札を納めると澄禅は明記しているのです。(H・T)



調査・整理活動、その他

◆『奉納四国中遍路之日記』は「玉井家文書」を整理している時、偶然に見つかったものです。資料の保存・整理の重要性を改めて認識した次第です。なお、本資料の詳細については、「四国遍路と世界の巡礼研究」プロジェクト編『資料紹介・「奉納四国中辺路之日記」』（2008年）を参照して下さい。

◆「秋山家資料」に続き、旧波止浜町の「原家資料」の整理が今治史談会の方々により進められています。書籍・雑誌を中心にこれまでダンボール約20箱分の資料が整理されました。

◆福田康夫首相は、小泉内閣の官房長官当時に国立公文書館の機能向上をめざして「公文書等の適切な管理、保存及び利用に関する懇談会」を設置し、答申を得ました。昨年11月には公文書館推進議員懇談会から、緊急提言「この国の歩みを将来への資産とするために」を受け、本年2月に上川陽子内閣府特命担当大臣を公文書管理担当大臣に任命し、「公文書管理の在り方等に関する有識者会議」を設置しました。11月の緊急提言の中心は国立公文書館の機能充実にあります。そこには「各地方公共団体の公文書館設置については、少なくとも全都道府県・主要都市に公文書館を設置し、国と地方との密なる公文書館網の構築に、政府として支援措置を検討すべきである。」とあり、注目されます。なお、緊急提言等については国立公文書館のホームページで見ることができます。

◆昨年度の愛媛資料ネットの活動には、愛媛大学地域創成研究センターの研究活動補助費が使用されています。

愛媛資料ネット活動日誌

- ・ 10月24日
松山市三津で資料調査(1名)
- ・ 11月2日
松山市三津で資料調査(4名)
- ・ 11月17日
愛媛大学で第5回歴史懇話会(10名)
- ・ 12月5日
松山市古三津で資料調査、大学へ資料搬出(1名)